

# 農業ジャーナリスト 窪田新之助コラム

Vol.6

稼げる農業へバリューチェーンの構築を

では、どうすれば農業で稼げるようになるのか。その一つの方向として考えるべきなのは、食と農を連携させたバリュー・チェーンの構築ではないだろうか。

注目すべきは、農業を含めた食料関連産業の国内生産額が9.5兆円もあること。つまり9.2兆円は川上から川下に流れる中、加工されたり小売りされたりすることで1.0倍以上にその儲けを増やしているのだ。世界を見渡せば、食産業が発展するほどに、利益の源泉は農業から離れていくのは一般的である。

儲かる農業を形づくるのであれば、販売や加工などフード・チェーン全体の中で利益の源泉がどこにあるかを探しながら、ステークホルダーとの間で関係を結び、ビジネスを創造していくことが大事である。

たとえば某農業法人は、通常のニンジンと違って機能成分のリコピンを多く含む品種を全国の農家や農業法人と契約栽培し、量販店に半年にわたって販売できる体制を整えた。それを作るうえで欠かせないのは畑の気温を計測するセンサー。積算する気温を独自に開発した計算処理に落とし込み、生育期間中にリコピンが最も多くなる時期を割り出して収穫の目安とする。

機能が付加価値となるので、契約農家にもこのセンサーを畑に立ててもらい、クラウドサービスを使って彼らに収穫の適期を通知する。代わりに収穫物はすべて契約通りの値段で買い取る。農家にとっては事前に収入が見込める、この農業法人にとってはバリュー・チェーンを構築できるというわけだ。

最近になって農業とテクノロジーの融合を現わすアグリテックを活用する動きが広がっていることもあり、こうした萌芽はいくつも見られるようになってきた。

日本農業は衰退産業から成長産業に変わるか--。イノベーターたちの今後に注目したい。